

子宮頸がんと 予防ワクチンについて知り 正しい選択をしましょう

発症の若年化が進む子宮頸がんは、ワクチンで予防できる病気です。一方でワクチンの副作用を耳にすることも多く、現状では接種しないという選択をする人が大多数を占めています。子宮頸がんと予防ワクチンをよく知り、正しい選択ができるよう、兵庫県産科婦人科学会に取材して詳しく話を聞きました。

子宮頸がんとってどんな病気？

子宮は女性特有の臓器で、子宮にできるがんには胎児を育てる子宮体部にできる「子宮体がん」と、入口付近の子宮頸部にできる「子宮頸がん」があります。この2種類のがんは原因や特徴、発症しやすい年齢や治療法などに違いがあります。(図1)

ここでは、日本で20〜30代の女性がかかるがんの第1位にあたり、しかも年々罹患率や死亡率が増加している「子宮頸がん」について詳しく学んでいきましょう。

全国の子宮頸がんによる罹患数は年間1万・1378人(2011年)、死亡

数は年間2,656人(2013年)で、女性の74人に1人が一生の間に子宮頸がんに罹患します。

子宮頸がんには子宮頸部の表面を覆う扁平上皮細胞由来の「扁平上皮がん」と、粘液を分泌する腺細胞由来の「腺がん」の2種類があります。子宮頸がんのほとんどは扁平上皮がんですが、腺がんは扁平上皮がんと比べて検診で見つかりにくく、治療も困難で、近年増加傾向にあります。

子宮頸がんの原因は ヒトパピローマウイルス(HPV)

「がん」は正常な細胞が何らかの原因で変化し、異常な増殖をする病気です。

遺伝や細胞の老化が原因になるがんが多いなか、子宮頸がんの原因は「ヒトパピローマウイルス(HPV)」であることが判明しています。

HPVは珍しいものでなく、性交渉の経験のある女性の80%以上が一生に一度は感染の経験があり、特に20〜40代の感染率が高くなっています。

HPVは男性が感染しても病気を発症することは少なく、性交渉を持った女性が感染してリスクを負います。性器の周囲の皮膚や粘膜の接触によっても感染するので、コンドームでは感染を防ぐことはできません。

100種類以上あるHPVのうち、15種類が発がん性のある「高リスク型」、残りが「低リスク型」に分類さ

■図1.子宮の構造と女性性器にできるがんの種類

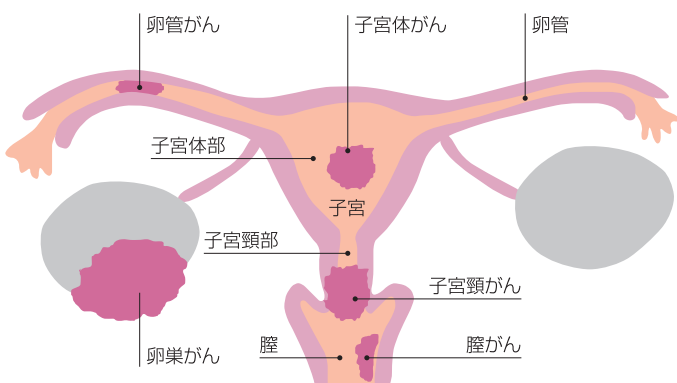


表1.子宮頸がんの病期(ステージ)

進行期	腫瘍の広がり	
I期 (子宮頸部に限局)	A1	がんの広がり7mm以下で深さ3mm以下
	A2	がんの広がり7mm以下で深さ5mm以下
	B1	がんの大きさが4cm以内
	B2	がんの大きさが4cmを超える
II期 (子宮頸部を越える)	A	膣の上2/3までの浸潤
	B	子宮頸部の周囲の組織へ浸潤
III期 (膣下部や骨盤壁に浸潤)	A	膣の下1/3まで浸潤
	B	子宮頸部の周囲の組織の浸潤が骨盤壁におよぶ
IV期 (遠隔転移)	A	膀胱や直腸に浸潤
	B	遠隔転移(腹腔内、肝臓、肺など)

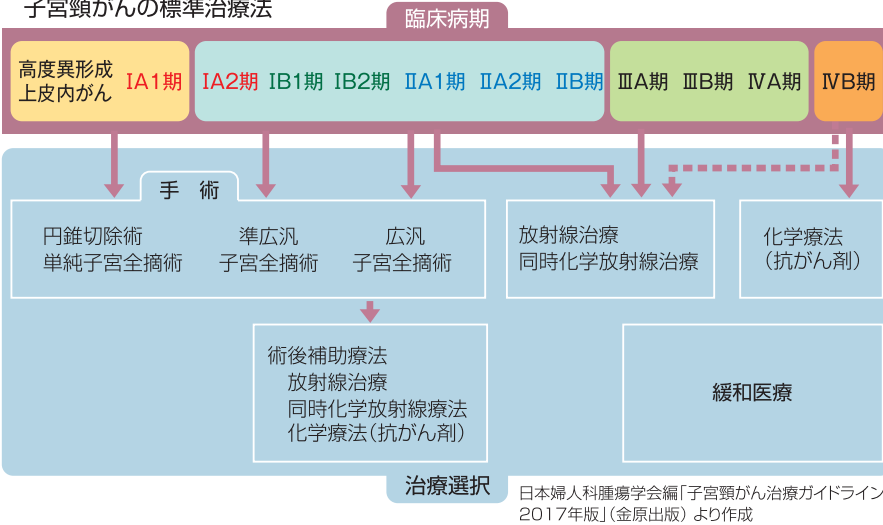
れます。そして高リスク型の中の「16型」と「18型」が子宮頸がんの原因の約70%を占めます。さらに20〜30代の症例の80〜90%は、この2種類が原因と考えられています。

また、喫煙も子宮頸がんのリスクを高めることが分かっています。

HPV感染後はどうなるの？

HPVに感染しても、90%の人は2年以内に自分の免疫力によって体内から排除されますが、何らかの理由で排出されなかった10%の人に、がんになる前段階の異型細胞が増加します。こ

図2.病期に応じた子宮頸がんの標準治療法



れが自然に治癒しない状態が続くと子宮頸がんは進行していきま

子宮頸がんは、前がん病変である「異形成」から表面に留まる「上皮内がん」になり、上皮の下にある基底膜を越えて広がる「浸潤がん」になります。

浸潤がんになるとリンパ節や多臓器にも転移を起こす可能性が出てきます。しかし、ここまで進行するにはHPV感染から平均10年以上の年月がかかるので、早く発見することができれば治療効果も上がります。

ところが初期の子宮頸がんではほとんど症状が現れません。初期の子宮頸がんを見つけるには細胞診による子宮がん検診を受けることが重要です。病気が進行してから現れる症状として

- ①性交時の出血
- ②茶褐色・黒褐色のおりものが増える、悪臭を伴う
- ③不正出血(生理に無関係の出血)
- ④下腹部や腰の痛み

等がありますが、症状が出てからがんが発見されても、かなり進行している



子宮頸がんの治療方法は？

場合が多いという恐ろしい病気なので

子宮頸がんの治療方法には手術(外科療法)・放射線療法・化学(抗がん剤)療法などがあり、患者さんごとに進行度や位置・年齢・合併症の有無などを考慮して実際の治療方法を決めていきます。進行度については表1、治療ガイドラインは図2の通りです。

がんが上皮内がんの段階で見つければ、「円錐切除」という子宮頸部の一部を切除する手術を受けます。この手術は開腹せずに膣からレーザーや高周波ルーブなどを使用して行います。この方法なら子宮を温存し、その後の妊娠出産も可能です。しかし切除した組織を精査した結果、進化したがんであることが判明すれば、子宮摘出など妊娠をあきらめないといけない場合があります。

浸潤がんの場合は子宮を摘出する「単純子宮全摘術」や、子宮を周囲の組織と一緒に切除して骨盤の中のリンパ節も摘出する「準広汎子宮全摘術」「広汎子宮全摘術」の手術や、放射線治療を行います。放射線治療は、最近では抗がん剤も併用して行うこともあります。

遠隔転移がある場合や再発に対しては、抗がん剤による化学療法が行われます。

治療後はどうなるの？

子宮頸がんの治療後には、様々な後遺症を生じることがあります。

円錐切除術で子宮を温存できても、妊娠するまでに時間がかかることもあり、早産や低出生体重児出産のリスクが少し増加します。

子宮全摘や放射線治療を受けた場合も再発や転移の心配はもちろん、妊娠能の喪失、性交時痛、更年期症状、排尿・排便障害、腸閉塞、リンパ浮腫、骨粗鬆症のリスクなど、より深刻な後遺症が起こる場合があります。

なお、病期別の予後については表2をご覧ください。

子宮頸がんは予防できます

今までの話で子宮頸がんの原因の大部分はHPV感染で、性交渉の経験のある女性なら誰でもかかる可能性があること、発症までに長い年月がかかること、進行するまで症状が出ないで初期の段階で発見することは難しいことが分かりました。

しかし、原因が分かっているのですから、HPVの感染を防ぐか、がんの前段階の異型細胞を発見できれば、子宮頸がんを予防することもできるのです。

そこで開発されたのが「HPVワクチン」です。2006年にアメリカで承認されて以来、ヨーロッパ、オーストラリア、カナダなど世界120か国

■表2.子宮頸がんの進行期と治療成績

全がん(成人病)センター協議会 加盟施設における相対生存率		
	5年	10年
I期	92.3%	89.1%
II期	77.6%	65.7%
III期	62.8%	46.8%
IV期	26.6%	14.5%

5年は2007～2009年全症例
10年は2001年から2004年全症例
国立研究開発法人国立がん研究センター
全がん相対生存率調査

以上で使用され、日本でも2009年から接種できるようになりました。

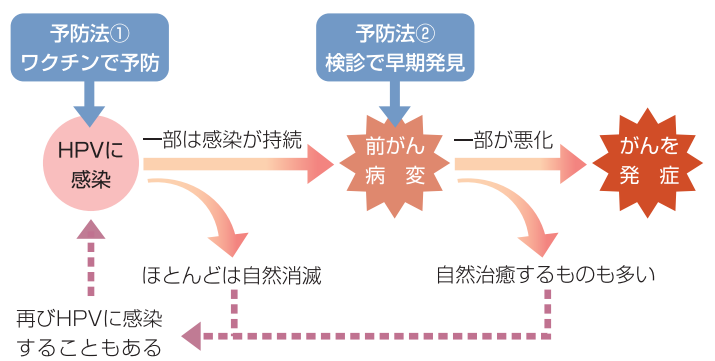
このワクチンは、すでに感染しているHPVを排除したり、前がん病変やがん細胞を治療する効果はありません。接種後のHPV感染を防ぐもので、先述の高リスク16型と18型に対する抗体を作る働きをし、未感染の人に接種すればHPVの16型・18型に感染することはありません。

その他に子宮頸がん検診を受けることも有効な予防法です。20歳以上の女性には2年に一度、細胞診による子宮頸がん検診の受診が推奨されています。ワクチンでできた抗体の効果は20年程度であり、ワクチンが効かない型のHPVも存在するので、ワクチンを受け種した場合も子宮頸がん検診は必ず受けるようにし、初期段階での病気の発見に努めましょう。(図3)

HPVワクチンの効果と意義

現在国内で認可されているHPVワクチンは「サーバリックス」と「ガー

■図3.子宮頸がんの進行と2つの予防法



ダシル」の2種類です。予防できるHPV感染はいずれも高リスク型の16型と18型で、ガーダシルはこれに低リスク型の6型と11型が加わり「外陰上皮内腫瘍」「膣上皮内腫瘍」「尖圭コンジローマ」にも有効です。

接種は、同じワクチンを全部で3回腕の筋肉に注射します。2回目は初回の1か月後、3回目は6か月後に行います。どちらのワクチンも、接種推奨年齢は性交経験のない小学校6年生、高校1年生相当の女子です。2013年度から対象の人に定期接種となっています。

接種費用は、オーストラリアやドイツなどワクチン先進国では国の全額負担で行われていますが、現在日本では



接種推奨年齢の人なら定期接種で公費負担になりますが、それ以外の人については自治体ごとに対応が異なります。

接種を希望する場合は、医療機関でワクチンの有効性と安全性について説明を受け、十分に理解した上で接種を受けてください。2種類のうちどちらのワクチンを選ぶかは自由ですが、医療機関により扱うワクチンが違うので、接種前に確認してください。

接種の際は体調を整えて臨み、当日は激しい運動は避けて接種部位を清潔に保ち、数日、数週間、気になる症状が出たらすぐ医師に相談してください。

海外での調査ではワクチンの導入によりHPV感染率が51.7～62.6%減少し、子宮頸部の異形成の頻度が47.0

59.2%減少したとあります。一方で日本でのHPVワクチンの効果推計(生涯累積リスクによる推計)は、10万人あたり859〜5955人(0.9〜0.6%)が子宮頸がん発症を回避でき、10万人あたり209〜144人(0.2〜0.14%)の子宮頸がんによる死亡の回避が期待されるとあります。

■表3.HPVワクチンの副反応症状

発生頻度	ワクチン：サーバリックス®	ワクチン：ガーダシル®
50%以上	疼痛 発赤 腫脹 疲労感	疼痛
10〜50%以上	掻痒 腹痛 筋痛 関節痛 頭痛など	腫脹 紅斑
1〜10%未満	じんましん めまい 発熱など	掻痒 出血 不快感 頭痛 発熱
1%未満	注射部位の知覚異常 感覚鈍麻 全身の脱力	硬結 四肢痛 筋骨格硬直 腹痛 下痢
頻度不明	四肢痛 失神 リンパ節症など	疲労 倦怠感 失神 筋痛 関節痛 嘔吐など

サーバリックス®添付文書(第11版)・ガーダシル®添付文書(第4版)より作成

出展：厚生労働省ホームページ
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou28/

これらは高い数値ではないかも知れませんが、最近の統計によると日本では年間に約1万人が罹患し、約3,000人(1日に約8人)が亡くなっていることを考えれば、十分意義のあることではないでしょうか。

HPVワクチンの問題点

HPVワクチンには、他のワクチン同様に副反応が出る場合があります。主な症状には接種部分の痛みや腫れ、赤みなどですが、表3のように一定の頻度で発生するものもあります。その他に接種部分のかゆみや出血、不快感、疲労感、頭痛、腹痛、筋肉や関節の痛み、じんましん、めまいなども報告されています。



また、まれに以下のような重い症状が報告されており、問題になっていきます。

- ①呼吸困難・じんましんなどを症状とする重いアレルギー(「アナフィラキシー」)
- ②手足の力が入りにくいなどの症状(「ギラン・バレー症候群」・末梢神経の病気)
- ③頭痛・嘔吐・意識の低下などの症状(「ADEM」・急性散在性脳脊髄炎という脳などの神経の病気)

これらの症状とワクチンとの因果関係は、調査中でまだ明らかになっていませんので、現在国内では定期接種の積極的推奨が控えられている状況です。

しかし世界先進諸国やWHO(世界保健機関)ではワクチンの効果と安全性を確認したうえで推奨を続け、実績も上がっていることから、見直しが必要な時期になっているのかも知れません。

2016年4月に、日本小児科学会や日本産婦人科学会など17の関連学会が積極的な推奨をする見解を発表しました。

推奨派が世界的な賞を受賞

昨年11月にイギリスの一流科学雑誌「ネイチャー」で、公共の利益のために科学や科学的根拠を広めることに貢献した人に与えられる「ジョン・マドックス賞」が、日本の医師でジャーナリストの村中璃子さんに与えられました。彼女は2014年頃からHPVワクチンの副反応を報道するマスコミに疑

間を感じて取材を重ね、2015年10月から科学雑誌に「HPVワクチン接種後の多彩な症状は薬害ではないのではないか」と化学的検証する記事が次々と発表していきましました。そのためパッシングを受け仕事にも影響が出ましたが、ワクチンの安全性について化学的根拠を明らかにし続けて、受賞に至りました。

日本でのHPVワクチン接種率は、当初70%ありましたが現在は1%未満に落ち込んでおり、WHOは2015年に日本のHPVワクチンの消極的推奨を名指しで批判しています。アイルランドやデンマークでも、HPVワクチンの薬害を訴える人の活動をマスメディアが大きく取り上げることによって接種率が激減する事態が起きており、世界共通の問題となっています。

ワクチンとの因果関係がはっきりしていなくても、若い女性が重い症状に苦しむのは確かにかわいそうです。しかし実際にはその人達を上回る数の若い女性が子宮頸がんに苦しみ、大切な子宮をなくしたり命を奪われたりしているのです。

その事実を踏まえ、あなた自身やご家族が子宮頸がんのリスクを避けるためにどうしたらいいか、よく検討して正しい選択ができるようにしてください。

■厚生労働省のホームページでのHPVワクチン情報公開
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou28/

■兵庫県ホームページでのHPVワクチン情報公開
https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf16/hpvhoushin.html

■兵庫県の相談窓口
子宮頸がん予防ワクチン特別相談窓口
078-362-3226 (平日9時00分〜17時00分)

*厚生労働省作成のパンフレット「HPV ワクチンの接種を検討しているお子様と保護者の方へ」より
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou28/dl/hpv180118-info01.pdf